

農林総合研究所 岩間総括研究管理員が 第18回北日本病害虫研究会賞を受賞

概要

農林総合研究所 岩間総括研究管理員が、長年の研究業績が認められ、第18回北日本病害虫研究会賞（防除技術開発・普及部門）を受賞しました。

青森県からの受賞は、第1回（平成21年度）及び第15回（令和5年度）のりんご研究所病害虫管理部のグループ受賞に続いて3例目となりますが、個人での受賞は今回が初めてとなります。

記

1 北日本病害虫研究会賞について（主催：北日本病害虫研究会）

北日本病害虫研究会賞は、病害虫防除並びに農薬に関する知識の向上および普及を図り北日本地域における農業の発展に顕著な貢献をした北日本病害虫研究会員に贈られる賞です。

2 受賞内容

- （1）受賞名 第18回北日本病害虫研究会賞（防除技術開発・普及部門）
- （2）受賞課題 「青森県における野菜・畑作物病害の防除技術の開発と応用」
- （3）受賞者 農林総合研究所 総括研究管理員 岩間 俊太（いわま としたか）

3 表彰式

- （1）日時 令和8年2月18日（水）10：00～
- （2）場所 岩手県盛岡市（盛岡市民文化ホール「マリオス」）

4 業績

受賞者は平成7年～令和7年の31年間にわたり、青森県内で問題となっていた多くの野菜・畑作物病害を対象に、防除技術の開発と応用に積極的に取り組み、得られた成果を青森県の技術情報資料として単独研究で46題、共同研究で7題提出して普及に移し、各作物の安定生産・品質向上に大きく貢献しました。

主な防除技術には、ニンニクの病害（さび病、黒腐菌核病、紅色根腐病）やメロンの病害（つる割病、炭腐病）の防除・被害軽減技術、東北地域で先駆けとなった転炉スラグを用いた野菜類土壌病害の被害軽減技術（令和3年度全国農業関係試験研究場所長会研究功労者表彰受賞）、積雪寒冷地のコムギの安定生産に不可欠な雪腐病類の防除技術、液状亜リン酸肥料による耐病性向上作用のダイズ黒根腐病への応用などが挙げられます。

これら開発技術は、県内外への技術普及・さらなる応用に大いに貢献しました。

参 考 情 報

青森県における野菜・畑作物病害の防除技術の開発と応用

業績例①：ニンニクさび病の薬剤防除では、春からの発生を対象に、散布開始時期の目安と薬剤の特性を生かした散布間隔を考慮することで、年1～3回散布でも少発生以下に防除可能であることを明らかにした。

業績例②：野菜類の土壌病害9種（ニンニク黒腐菌核病・紅色根腐病、メロンつる割病等）を対象に、転炉スラグを用いた土壌pH矯正を基本技術として他の耕種法等を併用することで、より効果を安定・向上させる被害軽減技術を開発した。

業績例③：コムギ雪腐病類の防除では、必ずしも根雪直前に散布する必要はなく、平年の根雪初日4週間前（11月中旬）からの1回散布でも十分な効果が得られることを明らかにした。

2010年（農総研圃場①）

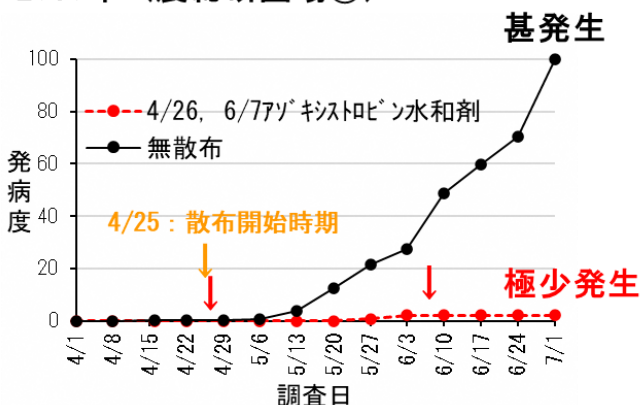


図1 ニンニクさび病の効率的防除法（散布間隔に注目！）



図2 転炉スラグを用いた土壌pH矯正と種子消毒の併用によるニンニク黒腐菌核病の被害軽減効果



図3 コムギ雪腐病に対する薬剤散布時期の改善（灰色：無散布区、緑色：根雪4～2週間前散布区）

問合せ先：農林総合研究所 企画経営監 倉内 賢一

電話 0172-52-4346

Email Kenichi_kurauchi@aomori-itc.or.jp

地方独立行政法人 青森県産業技術センター

★組織名称の表記についてのお願い

地方独立行政法人青森県産業技術センターは、県庁の組織ではありません。

地方独立行政法人青森県産業技術センターの名称を省略して表記する場合は、地方独立行政法人であることが明確に分かるよう、「(地独)青森県産業技術センター」又は、当センターの略称「青森産技」をお使いくださるようお願いいたします。

また各研究所の表記につきましても、「県〇〇研究所」ではなく、「(地独)青森県産業技術センター〇〇研究所」、又は「青森産技〇〇研究所」と表記してくださるようお願いいたします。